



古今和歌六帖標注

六



さだ	ちどり	つる	と	ゆづる葉	さしはま	つー	はだき	あふ	まき
たごり	か	か	か	か	か	か	か	か	か
さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ
さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ

も

の

し

うけひらぬさきりて戯まて

勝間田之池者我知蓮無然言君之

鬢無如之とよめることあり此等より

て蓮とつれあふささひふあふ

まて此情別れをさすをせられぬれ

あふたれぬささひふあふと別れ

出又ことかつかうやとかやぬま

と極ぬまをを別れせむがぬ

若りさの仙覺も若ゆとは蘭のま

名ありとらへ和名抄草類云玉筋云

蘭和名爲辨色立似莞細堅宜爲屏

明透摺すよ花つさのつこその

程ありへ八雲御抄草部不福つこ

みつこもさる藻怪草のさの條み

福つこさ三浦ふとめり云すの條の

條の三浦崎奥州

志のつこのつこささの福つこ

あひさづけつこつこひめさ

つこも此等八万五千四相聞の母と

奥州とあふらる一猶山拾葉も

相摸とありそれ正つこ

和名抄草類云款冬和名夜未木

萬葉集云山吹花か款冬と山吹

をひらぬさきりて誤ありもち

哥おもひ山吹の蓮生八段小棗棠花

あると和尔雅よいらつら

予が隨筆小辨

福つこ

万十 夫雜八崎

如本 万十 夫雜八崎

万十作者未詳 古本九集 夫雜四野

山 万十 夫雜八崎

同 万十 夫雜八崎

万八厚見玉 新吉春 新撰 夫春六朝

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

おてめんささきもささき川

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

貫之

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

躬恒

古今戀三
山と海のついでに
人の心をなやまして

亭家
海を渡る舟に
秋風は花をよるまに
花をよるまに
花をよるまに

古今集

代春下り
古本集
海を渡る舟に
秋風は花をよるまに
花をよるまに

古今集

大
海を渡る舟に
秋風は花をよるまに
花をよるまに

古今集

海を渡る舟に
秋風は花をよるまに
花をよるまに

古今集

海を渡る舟に
秋風は花をよるまに
花をよるまに

古今集

海を渡る舟に
秋風は花をよるまに
花をよるまに

古今集

海を渡る舟に
秋風は花をよるまに
花をよるまに

古今集

海を渡る舟に
秋風は花をよるまに
花をよるまに

古今集

海を渡る舟に
秋風は花をよるまに
花をよるまに

古今集

海を渡る舟に
秋風は花をよるまに
花をよるまに

古今集

万葉廿
比佐可多乃安米波布里之
之故我伊夜波都波奈雨故
非之伎
和我勢

大伴家持

万葉廿
比佐可多乃安米波布里之
之故我伊夜波都波奈雨故
非之伎
和我勢

後撰夏

比佐可多乃安米波布里之
之故我伊夜波都波奈雨故
非之伎
和我勢

万葉廿
比佐可多乃安米波布里之
之故我伊夜波都波奈雨故
非之伎
和我勢

新撰家
比佐可多乃安米波布里之
之故我伊夜波都波奈雨故
非之伎
和我勢

家
比佐可多乃安米波布里之
之故我伊夜波都波奈雨故
非之伎
和我勢

家
比佐可多乃安米波布里之
之故我伊夜波都波奈雨故
非之伎
和我勢

古秋上
新撰家
比佐可多乃安米波布里之
之故我伊夜波都波奈雨故
非之伎
和我勢

比佐可多乃安米波布里之
之故我伊夜波都波奈雨故
非之伎
和我勢

古夏之朗 朗 古 古 妹とあぬゑの年多花

又三條

古本集 古本集 のついで ついで 古 古 妹とあぬゑの年多花

伊勢

拾遺家 拾遺家 古 古 妹とあぬゑの年多花

ふゆ

家 家 古 古 妹とあぬゑの年多花

あゆみ

伊勢集 伊勢集 古 古 妹とあぬゑの年多花

古四 古四 妹とあぬゑの年多花

朗貫之 朗貫之 妹とあぬゑの年多花

後撰總三 戒仙法師
あゆみ一りてや 妹とあぬゑの年多花

和名抄草類云鹿鳴草兩雅集註云
萩一名蒲 和名波木 今波也 立用萩
撰万葉等 用萩字 唐韵 三音 明讀 漢
草名也 用文 芳 唐韵 三音 明讀 漢
語抄又用 鹿鳴 詩 三音 並 本 文 未 詳

家持集 家持集 妹とあぬゑの年多花

秋をね

古秋上 古秋上 新方家 新方家 播磨 播磨 妹とあぬゑの年多花

素性

ふゆのほろたし ふゆのほろたし 妹とあぬゑの年多花

女のしんせき

拾遺秋女 拾遺秋女 貫之集 貫之集 妹とあぬゑの年多花

やのあや

万八 万八 大伴田村大嬢 大伴田村大嬢 風意四 風意四 妹とあぬゑの年多花

やれ持

同 同 妹とあぬゑの年多花

万葉十八
波里夫久路已礼波多婆利奴須理
夫人路伊麻婆衣天之可於吉奈佐
備勢年

同八
雲上雨鳴都流鷹乃寒苗芽子乃下
兼著黄髮可毛

ゆきつね大なる

たのしみ家
むらさき
むらさき

人まらる

古秋上 拾雅秋新方新撰古今集
ち拾京
ち拾京
平城
桓武帝皇子

同 古本家持集
みけのくさね玉のめしんこむさびけぬしん人かかよるあざな

かきつね

家
たのしみつねのめしんこむさびけぬしん人かかよるあざな

同
あまのつねのめしんこむさびけぬしん人かかよるあざな

同
あまのつねのめしんこむさびけぬしん人かかよるあざな

同
あまのつねのめしんこむさびけぬしん人かかよるあざな

古今雑上
あまのつねのめしんこむさびけぬしん人かかよるあざな

人丸集
あまのつねのめしんこむさびけぬしん人かかよるあざな

万二月朔皇子 古本家持集
あまのつねのめしんこむさびけぬしん人かかよるあざな

大伴坂上女

同八 夫秋二 大和
あまのつねのめしんこむさびけぬしん人かかよるあざな

ふこのつね

後秋中
あまのつねのめしんこむさびけぬしん人かかよるあざな

第五巴
あまのつねのめしんこむさびけぬしん人かかよるあざな

あまのつね

傍秘秋中
向や分のよつれあひおきあめり
まぎの下をれもきこもこれ

拾雅下
とちあひうらふもまきくもあはれ秋の下をれまづもきこも

躬恒

同一家
とちあはれもきこもまきくもあはれ秋の下をれまづもきこも

あみみ

續千秋上 雲秋上 小續雲一
秋の下をれまづもきこもあはれ秋の下をれまづもきこも

奥風
此名あやまけり

拾雅下 忠孝集
秋の下をれまづもきこもあはれ秋の下をれまづもきこも

はしこ

秋の下をれまづもきこもあはれ秋の下をれまづもきこも

まき

秋の下をれまづもきこもあはれ秋の下をれまづもきこも

万葉十五
毛美知婆能知良布山邊由許具布
祢乃雨保比爾米但豆伊但豆伎雨
家理

あつこつ 掬はさるあつこつ
万葉三子産輝之代者無常跡とも
又十九子守都世美能常無見者とも
そのあつこつあつこつあつこつあつこつ
あつこつに用ゆる初あれはあつこつ
あつこつ

らせ

拾秋 新撰 東叶朝
あつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつ

女郎花

万叶新撰 吉秋 上九
あつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつ

古辨諸通昭 家
あつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつ

時平公
左大臣 昭宣公男

同秋上 新万葉
あつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつ

らせ

同家 京宗千集
あつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつ

三條右大臣

同 新撰
あつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつあつこつ

拾遺秋

小野...
参議岑守男

あふ...
あふ...
あふ...

古秋上
寛新方新撰朝

女...
女...
女...
唯喬親王御子

同

さ...
さ...
さ...

編昭

同家

名...
名...
名...

しゆわ

後秋中
おぼ...
後

女...
女...
女...
おぼ...

あふ

古秋上

た...
た...
た...
おぼ...

は...
は...

後撰春下

清原深養父

お...
お...
お...

後秋中
新方
新勅秋上
お...

名...
名...
名...
お...

同

ま...
ま...
ま...

おた

家

あ...
あ...
あ...
お...

拾遺秋

お...
お...
お...
お...

おあ

拾秋家

か...
か...
か...
お...

新拾秋家

あ...
あ...
あ...
お...

み山録

古今集上

女...
女...
女...
お...

古秋上

あ...
あ...
あ...
お...

同家

あ...
あ...
あ...
お...

古今秋上

定方朝臣

あまののろよあひぬまのあま

後秋中 桐櫛ののろよあひぬまのあまののろよ

躬恒

あまののろよあひぬまのあまののろよ

忠

あまののろよあひぬまのあまののろよ

於中の

新拾遺秋上

清原元輔

あまののろよあひぬまのあま

後秋中 家 せうり後 古秋上平定支 せうり後 何れもあひぬまのあまののろよ

素直

あまののろよあひぬまのあまののろよ

六十一

雅望親王御子

後秋中 枝もあひぬまのあまののろよ

同秋中 伊勢集 枝もあひぬまのあまののろよ

伊勢

同家 女もあひぬまのあまののろよ

女もあひぬまのあまののろよ

ふゆのきみ

古秋上 女もあひぬまのあまののろよ

玉秋上 女もあひぬまのあまののろよ

貫之

古物名 拾遺秋 女もあひぬまのあまののろよ

此のうらなひのうらなひ流布本あり

此のうらなひのうらなひ流布本あり

此のうらなひのうらなひ流布本あり

此のうらなひのうらなひ流布本あり

此のうらなひのうらなひ流布本あり

此のうらなひのうらなひ流布本あり

此のうらなひのうらなひ流布本あり

此のうらなひのうらなひ流布本あり

此のうらなひのうらなひ流布本あり

此のうらなひのうらなひ流布本あり

おせけつりさへ八回奉え年月より五
 年まへん又朱雀院母合ハたしか
 みおくれて四十年来に傳へし是の
 入べき一とちか

おまごりごと

後秋中より人あぐり 朱家
 秋のあぐりおあまおあまおあま
同 奥風集
 おあまおあまおあまおあま
後秋中より人あぐり 朱家

人麻呂

家持集
 ねづみのあたまはういふはういふ
 下同

万千 新吉秋上 夫秋二 家
 万のあたまはういふはういふ
同八家持 後秋中より人あぐり 朱家
 おあまおあまおあまおあま

かたむし

同八夫雜山 近江
 万のあたまはういふはういふ
秋万イ夫

あまろ

家
 おあまおあまおあまおあま

おあまろ

同
 おあまおあまおあまおあま

おあまろ

同
 おあまおあまおあまおあま

おあまろ

同
 おあまおあまおあまおあま

おあまろ

同
 おあまおあまおあまおあま

躬恒

古今戀一
 おあまおあまおあまおあま
古来集
 おあまおあまおあまおあま
同
 おあまおあまおあまおあま

おあまろ

非平朝臣甲

古秋上 寛新万 後六
秋の船はあめこさくをるすしき

いぢ

伊勢集

秋の船はあめこさくをるすしき
あびふれれとまねきやうすぬ
此うさくつう一ぼくたのむやうさ
きやうそつ一そのまよふんが

何きの船はあめこさくをるすしき

古秋五卷まふひの秋長 伊勢集
あびふれれとまねきやうすぬ
此うさくつう一ぼくたのむやうさ
きやうそつ一そのまよふんが

同哀傷 にくものあすけ

つるが 極一 村すきまのまねきやうすぬ

大和物語

秋風のこころやうさくをるすしき

いづれ風のこころやうさくをるすしき

下 同

新古秋上 一 明貫之

小倉山ふゆの船はあめこさくをるすしき

拾遺戀二
よこそまありやうものこころあは
ずのこころをうさくをるすしき

はまの父

續古秋上 雲秋上
あびふれれとまねきやうすぬ

ちんじ

古秋上 後六
今くは 極すまへとまねきやうすぬ

日置 長枝 傳未詳
あびふれれとまねきやうすぬ

万八續後拾遺 一
あまのつげの屋花がうさくをるすしき

いかにあまの

同
あまのつげの屋花がうさくをるすしき

ひいさ

同七
妹がうさくをるすしき

夫秋二薄
あまのつげの屋花がうさくをるすしき

秋風のこころやうさくをるすしき

あまのつげの屋花がうさくをるすしき

あまの

續後拾遺 上 代秋上 家
あまのつげの屋花がうさくをるすしき

あまのつげの屋花がうさくをるすしき

新勅撰戀一 藤原仲實朝臣

あまのつげの屋花がうさくをるすしき

下 同 一
万葉廿 長歌

波呂波呂雨伊勢乎於毛比泥於比
曾前乃曾與等奈流麻塗云

新古今戀三 安法法師女
あまのつげの屋花がうさくをるすしき

おあし人

~~~~~

拾秋新撰家 京東船恒集  
秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

古本集  
秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

後醍醐中務 家  
秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

類聚國史云平城天皇大同二年九月乙巳申神泉苑琴歌問奏云云于

第二帖 原

名よちいづれもあつたてまつる  
あつたてまつる  
此帖 ちよ  
五月まつたてまつる

時皇太弟頌歌云

美耶比度乃曾能可近米豆留布智  
波賀麻岐美能於保母能多乎利太  
流和布  
上和之  
表理比度能已巳呂乃麻丹真布智  
波賀麻宇倍伊呂布賀久尔保比多  
利从利  
群臣俱称万歳

おあし人

~~~~~

續後拾秋上嵯峨天皇御製大
秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

おあし人

同平城天皇御製同
秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

古秋と新方 家
秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

同明家
秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

古俳諧棟梁 寛新方
秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

秋の風よあつたてまつるを秋風の人よきこもてあつたてまつる

和名抄草類云四聲字苑云菊和名

良德也岐云可波良日精草也

小俗云本音之重とあはれはきくとり

ち俗のやうなれと醫心方薬名部

に和名岐久とまゑ又ふふと

かたがはまのひめいりひりひり

くまのひめいりひりひりひり

名を俗あへといひひりひり

類聚國史曲宴云延暦十六年十月

云酒酣皇帝歌曰

已乃已呂乃志具礼乃阿米爾菊乃

波奈知利曾之奴倍使阿多羅蘇乃

香字

此法

めつてゑつてつてつてつて

離騷に朝飲木蘭之際露兮夕餐秋

菊之落英

素性集

き

古秋下素性菊新撰朗家

ぬきそりひりひりひりひりひりひり

葉平

同伊大家

かたがはまのひめいりひりひりひり

か

同期舟家

ひりひりひりひりひりひりひり

是華野馬

同菊新撰

かたがはまのひめいりひりひりひり

紀甲

か

かたがはまのひめいりひりひりひり

か

一

古秋下

かたがはまのひめいりひりひりひり

か

かたがはまのひめいりひりひりひり

か

家

かたがはまのひめいりひりひりひり

家

かたがはまのひめいりひりひりひり

新拾秋下

かたがはまのひめいりひりひりひり

代秋下

かたがはまのひめいりひりひりひり

貫之集

かたがはまのひめいりひりひりひり

後拾秋下

かたがはまのひめいりひりひりひり

清原元輔

かたがはまのひめいりひりひりひり

貫之集

かたがはまのひめいりひりひりひり

同秋下

かたがはまのひめいりひりひりひり

貫之家

かたがはまのひめいりひりひりひり

か

同秋下

かたがはまのひめいりひりひりひり

貫之家

かたがはまのひめいりひりひりひり

同秋下

かたがはまのひめいりひりひりひり

貫之家

かたがはまのひめいりひりひりひり

同秋下

かたがはまのひめいりひりひりひり

貫之家

かたがはまのひめいりひりひりひり

同秋下

かたがはまのひめいりひりひりひり

か

躬恒集

神字のあふふふふふのす

下同

伊勢

秋のそよ風をいかにかきかへてはるかにひらいてはるかにあそびて
かきかへてはるかにあそびてはるかにひらいてはるかにあそびて

かきかへ

古今秋下
久々のそよ風をいかにかきかへてはるかにひらいてはるかにあそびて

古今集
かきかへてはるかにあそびてはるかにひらいてはるかにあそびて

おどろ

あつた物かきかへてはるかにあそびてはるかにひらいてはるかにあそびて

是る

新拾遺 代冬 夫冬
あつた物かきかへてはるかにあそびてはるかにひらいてはるかにあそびて

おどろ

貫之集
あつた物かきかへてはるかにあそびてはるかにひらいてはるかにあそびて

續後拾遺
あつた物かきかへてはるかにあそびてはるかにひらいてはるかにあそびて

あつた

夫冬
あつた物かきかへてはるかにあそびてはるかにひらいてはるかにあそびて
後意五清陰朝臣
あつた物かきかへてはるかにあそびてはるかにひらいてはるかにあそびて
ひ後
あつた物かきかへてはるかにあそびてはるかにひらいてはるかにあそびて

あつた

あつた物かきかへてはるかにあそびてはるかにひらいてはるかにあそびて
古秋下より入る新撰
あつた物かきかへてはるかにあそびてはるかにひらいてはるかにあそびて
新
あつた物かきかへてはるかにあそびてはるかにひらいてはるかにあそびて

伊勢

あつた物かきかへてはるかにあそびてはるかにひらいてはるかにあそびて

桔梗

あつた物かきかへてはるかにあそびてはるかにひらいてはるかにあそびて

和名抄草類云禮記注云芸菖蒲也
初香草也

此等和名抄よりあつひひまきと申す
すれどもあつひひまきと申す
あつひひまきと申す

拾遺物名
あつひひまきと申す

此等和名抄よりあつひひまきと申す
あつひひまきと申す

拾遺物名
あつひひまきと申す

川よふと申す

あつひひまきと申す

古物名友則 家
あつひひまきと申す

あつひひまきと申す

龍 膳
あつひひまきと申す

古物名友則 家
あつひひまきと申す

あつひひまきと申す

あつひひまきと申す

伊勢

あつひひまきと申す

あつひひまきと申す

新勅物名 家
あつひひまきと申す

紫 花
あつひひまきと申す

和名抄草類云本草云紫苑一名紫
菫和名能之俗
云之乎近

此等和名抄よりあつひひまきと申す
あつひひまきと申す

あつひひまきと申す

あつひひまきと申す

新勅物名 家
あつひひまきと申す

あつひひまきと申す

あつひひまきと申す

あつひひまきと申す

あつひひまきと申す

あつひひまきと申す

あつひひまきと申す

あつひひまきと申す

くりに説くあり藻塔まゝの苦膳
とありて就傍の一名とせり

又契沖を苦丹とちて牡丹の類と
りうをこのめめ巻云ひんぐーハサ
ーけあるいつみみてらんかあや
の花うゑて春秋のいそ本その中
うちませうー

和名抄草類云本草云蓄薇陶隱居
注云盛實即名難波

古今誹諧 よんあき

まめあれどあまらふんくーのあは
こいれてあまらふんくーのあ
袂衣一
まめあれどあまらふんくーのあ
そでようらふんくーのあ

日知録姪女祠碑文云百日積薪一
日燒之

と挿すふかゝる焼いんあまらふ
とくーのあまらふんくーのあ
日敷のあまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
まめあれどあまらふんくーのあ

寛平歌合
こゑのよけあまらふんくーのあ
まめあれどあまらふんくーのあ
法華經涌出品云不淨世間法如蓮
華在氷

古物を遺詔家
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ

あまらふんくーのあ

蓄薇
あまらふんくーのあ

古物名貫之
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ

かゝるあ

河梅枝
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ

あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ

かゝるあ

万由 夫雜十人あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ

かゝるあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ

あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ

あまらふんくーのあ

万六
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ

あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ

あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ

伊勢

夫夏三よんあまらふんくーの家
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ

あまらふんくーのあ

古夏朗家
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ

あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ
あまらふんくーのあ

入だてまゝのけしきまをこれのけしきの
花ごころともいひつるまゝのけ

昔のう打るる人ははまのたむらうとてまをこけんとて
月さのうつろふちよおむひさびさ今までとる成はま一まの
つむらふよ衣をさうきぬもむらうもさうきぬも一た

第五已出

世の中は人のらき月さのうつろひやとたるとまをこけんと

万十 古本人左集

けぬ万

けぬ万

同

つむ万

わさむらひ

母とく

古きけ 新撰

みちいへいしむらへんはのちよまをこけんとて
任言よあやまらぬはまの人のこころよとてあむらと

おあ一人

土
まのいへいしむらへんはのちよまをこけんとて

万葉七

暇有者拾兩將往住吉之岸因云戀

忘負

小町集

これれをこけまをこけんとてあむらと
人のこころよあやまらぬはまの

おあ一人

拾遺上 夫離家

おあ一人

躬恒

古雜上 生蓮心峯 新撰

おあ一人

後志三長谷雜朝臣

おあ一人

わさむらひのちよまをこけんとてあむらと

おあ一人

古雜上 生蓮心峯 新撰

おあ一人

後秋中 中宮宣言家

おあ一人

伊勢物語

今うらたてこけまをこけんとてあむらと
ひらのこけまをこけんとてあむらと

西文

古物名紀一 花のあはれはさかしく白ひもあはれはさかしく

あはれはさかしく

夫雜二 山一 花のあはれはさかしく白ひもあはれはさかしく

はさかしく

人大和のあはれはさかしく白ひもあはれはさかしく

新勅意五 人一 花のあはれはさかしく白ひもあはれはさかしく

せま

あはれはさかしく白ひもあはれはさかしく

命婦 傳未詳

同 花のあはれはさかしく白ひもあはれはさかしく

後撰雜三

あはれはさかしく

枕草紙云くあはれはさかしく白ひもあはれはさかしく

万葉みたびてあはれはさかしく契沖云

このたびとりし初め鉄明紀ふ於是
天皇命神祇伯敬受樂とてさかしく
樂十五の長歌ふ多太未可母とみて
たさかしく同し初めてさかしく
さかしくさかしくさかしくさかしく
さかしくさかしくさかしくさかしく

なまぎ

大伴のさかしく

同 夫雜三 里一 花のあはれはさかしく白ひもあはれはさかしく

同 苗代同 春五 花のあはれはさかしく白ひもあはれはさかしく

同 夫雜六 弟一 人九 花のあはれはさかしく白ひもあはれはさかしく

たで

同 古來一 人九 集 花のあはれはさかしく白ひもあはれはさかしく

夫雜十 人一 花のあはれはさかしく白ひもあはれはさかしく

むづ

左大臣のさかしく

第三 已出 花のあはれはさかしく白ひもあはれはさかしく

本草和名云薺菜和名奈岐
契沖云さかしく俗さかしく水葵とてさかしく
さかしく

山家集下

くれがめはさかしくあはれはさかしく
かさかしく人のあはれはさかしく

此名あまのり万葉うた内大臣藤原
卿と有りさる鎌足公の法皇の御食
子御男さるふまうりとあるはかま
たりり虫損あるべし

本草和名云防已和名阿乎迦都良
とありさる和名抄る阿加豆
良と云乎文字をおとさる

あまの牽牛花と木槿とをま
出せり

真淵云此木槿と云ふは後
世のあまのりさるる也
契沖云此木槿は其葉を木槿
詩鄭風云有女同車顔如舜花玉篇
云槿木槿也又云舜師闋切埤雅云
槿華如葵朝生夕隕一云舜師之義
蓋取此木槿と漢書云朝
生夕落と云も現に彼花と云ふに
夕ふもあまのりさるる寶鑑詩云槿花半
照夕陽收かまは此木槿は槿花と
と云ふ下の内もあまのりさるる也
於於教のりさるる也
後撰戀一 源ひのりさるる
あまのりさるるあまのりさるる
あまのりさるるあまのりさるる

万葉集
足柄の葉根の山よとあまのりさるるひるよりさるる
あまのりさるる

さるる

みまのり内大臣

同二
玉のりさるるあまのりさるるあまのりさるるあまのりさるる
あまのりさるる

二條右大臣

後撰
名のりさるるあまのりさるるあまのりさるるあまのりさるる
あまのりさるる

後撰三
あまのりさるるあまのりさるるあまのりさるるあまのりさるる
あまのりさるる

あまのり

万葉集
あまのりさるるあまのりさるるあまのりさるるあまのりさるる
あまのりさるる

あまのりさるるあまのりさるるあまのりさるるあまのりさるる
あまのりさるる

あまのりさるるあまのりさるるあまのりさるるあまのりさるる
あまのりさるる

あまのり

あまのり

万葉集
あまのりさるるあまのりさるるあまのりさるるあまのりさるる
あまのりさるる

あまのりさるるあまのりさるるあまのりさるるあまのりさるる
あまのりさるる

あまのり

あまのりさるるあまのりさるるあまのりさるるあまのりさるる
あまのりさるる

あまのり

あまのりさるるあまのりさるるあまのりさるるあまのりさるる
あまのりさるる

あまのり

あまのりさるるあまのりさるるあまのりさるるあまのりさるる
あまのりさるる

あまのり

董葵 和名 禮

万八赤人續古草下雲春下夫春其家枕
其事の暇よほしれ掃よとち一れぞのそあつら一みお好より
後春下
万八高田其主 夫春六效茶
山吹のほしめいほがきいれ掃よとち一れぞのそあつら一みお好より

れをた

同日夫春若菜
春日野ほしめいほがきいれ掃よとち一れぞのそあつら一みお好より

ら方夫

みお好よりほしめいほがきいれ掃よとち一れぞのそあつら一みお好より

伊勢集

系あるよあげかきいれ掃よとち一れぞのそあつら一みお好より

古物名あきせのほしめ

けいれ掃よとち一れぞのそあつら一みお好より

るる

第三已出
けいれ掃よとち一れぞのそあつら一みお好より

本草和名云草蒿和名於波岐

るる袖中抄才十六もますうとらま
るるの契沖も芥ハ味るるま
あははるるのあま
うらまきるる散木集春部か
るるのあま

仲實朝臣

あまのあま
あまのあま
あまのあま
あまのあま

本草和名云藍實和名阿為乃美
るるのあま

書紀繼體紀大兄皇子御歌云麻左
るるのあま

和名抄祭禮具云日本紀松記云為
るるのあま

万十一
あまのあま
あまのあま

あま

同八坂上即女續後拾遺 夫夏三
あまのあま
あまのあま

同七
あまのあま
あまのあま

あまのあま
あまのあま

あま

同七
あまのあま
あまのあま

あま

同九 新勅雅
あまのあま
あまのあま

あまのあま
あまのあま

此のいづれが物名か

契沖云 朝日影之蘿

山橘の俗よは教柑子と造酒司式
云大嘗祭供神料山橘子表等草谷
二橋と云ふは本草和名に牡丹
也末多知波奈

万葉四

山之磐影 爾生流菅根乃敷吾毛

寛新方

新

あはれなるこころのまはるる

後徳三

あはれなるこころのまはるる

あはれなるこころのまはるる

あはれなるこころのまはるる

あはれなるこころのまはるる

古徳一新撰家

あはれなるこころのまはるる

万千家持 夫雑十人

あはれなるこころのまはるる

同二

あはれなるこころのまはるる

あはれなるこころのまはるる

あはれなるこころのまはるる

同四家持

あはれなるこころのまはるる

あはれなるこころのまはるる

あはれなるこころのまはるる

あはれなるこころのまはるる

あはれなるこころのまはるる

あはれなるこころのまはるる

あはれなるこころのまはるる

あはれなるこころのまはるる

あはれなるこころのまはるる

あはれなるこころのまはるる

あはれなるこころのまはるる

踐祚大嘗會式云車持朝臣一人執
菅蓋子部宿祢一人笠取直一人並
執蓋網云
契沖云 此のいづれが物名か
此のいづれが物名か

あはれなるこころのまはるる

袖中抄第十七巻昭云此... 眞淵云万葉集も五葉原とあり...

新撰万葉上 鶯之阪之花哉故沼濫侘敷音舟柳 蠅手鳴

万土 たまきま... 道のせいに... 人のあま...

虫

後秋上... 秋上... 秋上... 秋上...

わ

わ... とも...

古今誹諧... 古今誹諧...

古意田... 万十五大石... 万十五大石...

伊勢

後意五深養父... 玉意田... 古物名... 同在原...

夏虫

同意二友... 寛新方家... 寛新方家...

鄭恒

古慮三
こまを何ういひまらんか
あまおまひよもさぬいぬ

ふりかへ

古本三つ集
あまを何ういひまらんか
あまおまひよもさぬいぬ

古慮一
あまを何ういひまらんか
あまおまひよもさぬいぬ

あまを何ういひまらんか
あまおまひよもさぬいぬ

伊勢

後宮五家 古本業平集
あまを何ういひまらんか
あまおまひよもさぬいぬ

あまを何ういひまらんか

古本藤原忠房 後六朗を在り
あまを何ういひまらんか
あまおまひよもさぬいぬ

あまを

あまを何ういひまらんか
あまおまひよもさぬいぬ

あまを

後秋上
あまを何ういひまらんか
あまおまひよもさぬいぬ

あまを何ういひまらんか
あまおまひよもさぬいぬ

あまを

あまを何ういひまらんか
あまおまひよもさぬいぬ

あまを何ういひまらんか

あまを何ういひまらんか

あまを何ういひまらんか
あまおまひよもさぬいぬ

あまを何ういひまらんか
あまおまひよもさぬいぬ

あまを何ういひまらんか
あまおまひよもさぬいぬ

あまを何ういひまらんか
あまおまひよもさぬいぬ

六度集經第八云以色為火人為飛
蛾々貪火色身見燒煮

後撰秋上
あまを何ういひまらんか
あまおまひよもさぬいぬ

幽遠隨筆云松虫の考ハ松風の標
とひきあひひらふまた古人の名
付一云此説より今チチコロシ
とゆを松虫ありといハロム
安齋隨筆曰陰蓋卷云猿樂の注物
不幽宮のりあり注松虫の考ハ
アハクとてと由注物ハ古き物
注トシム一云

後秋上
あまを何ういひまらんか
あまおまひよもさぬいぬ

あまを何ういひまらんか
あまおまひよもさぬいぬ

此うこまつむしを物名とあり

なごて五條后とすきまの八雨院冬嗣
公の侍女仁明帝の后の侍あり
されど類後本伊勢集は花のおも
ろきとて武部等の言ふまゝとて
ふるまひのほれとてならむ秋の母に
花をさくさくする人もさか
はるべし

秋の母とされし中のみとあり
この武部等の言とす八貞保親の
侍りてさればこゝ五條后とありハ
誤り秋の母のほれとてならむとて
「たゞれま考」

和漢三才圖會小鳴声如振鈴言里
里林里々林とあり誤りナチチ
ロリンと云々於史に於てハハ幽
遠隨筆とあり

流しきのなまなたまつむし松虫ははあぐさる尾を流しやめむ

五條の后

伊勢集
秋の母まなまむし松虫のあぐさる尾を流しやめむ
まなまむし松虫のあぐさる尾を流しやめむ

たゞむし

忠見集
たまむし松虫あひれび流しむし松虫あぐさる尾を流しやめむ

躬恒集
人の妹くもこももむし松虫あひれび流しむし松虫あぐさる尾を流しやめむ

第二已出
かりまむし松虫あひれび流しむし松虫あぐさる尾を流しやめむ

ひびき

万人九集
夕陰あけひびきのあひれび流しむし松虫あぐさる尾を流しやめむ

遍昭

あゝも古今もいざうとて
赤集よりいづれを校遠と忠
考とありハ誤り

古徳五家拾物忠考
今もいづれを校遠と忠考とありハ誤り

はらわき

後秋上
あゝも古今もいざうとて

同秋下貫之
あゝも古今もいざうとて

同秋上より
あゝも古今もいざうとて

古秋上より
あゝも古今もいざうとて

貫之

同屋け拾物名
あゝも古今もいざうとて

万人赤人集
あゝも古今もいざうとて

あゝも古今もいざうとて

あゝも古今もいざうとて

後秋上葉平伊

伊

~~~~~

夫夏三忠峯亭

亭

~~~~~

友則

古意三寛新方家

家

る寛

る寛

ぞ寛

~~~~~

~~~~~

續後按戀田 源家長朝臣

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

寛新方

寛

~~~~~

の新

お新

此の寛新

拾秋貫之新朗家

家

~~~~~

の新

お新

此の寛新

~~~~~

~~~~~

第五巴出

出

~~~~~

~~~~~

古秋上新方新撰

撰

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

後撰秋中

中

~~~~~

~~~~~

万九 ごふり万  
冬あはれまきむさひて梅もあのみあるまきよかきまらぬぞ

躬恒

万葉四  
事不問木尚味狹監諸茅等之練乃  
村戸二所詐來

古本集  
あはれぬそよ木あきもるれいやはけけすいりそであまふ

はらゆき

家  
のれさぬ梅木あはれまきし花さのたよりまきぬぞあまふ

伊勢

後春中よんをい家  
梅さすほふもあきまきればあけきけぬあまふ

ねたき

此條本文ハいりあやまらういり  
藏本よりてあまふ

家  
たがあまこれなむまきしつらよむひまきぬあまふ

後雜一贈大政大臣 友則集  
今までよあまこれのまきしつらよむひまきぬあまふ

同く川友則家  
あまこれのまきしつらよむひまきぬあまふ

此の本文もいりあやまらういり

志とて

遠江  
東海乃ちあの中さげいもあまきぬあまふ

ゆかひよあまきぬあまふ

花

古亭朝  
梅さすほふもあきまきればあけきけぬあまふ

友則

同春下 家  
あまこれのまきしつらよむひまきぬあまふ

はらゆき

新撰 家  
あまこれのまきしつらよむひまきぬあまふ

おね一人

あまこれのまきしつらよむひまきぬあまふ

葉の字を志とていりあやまらういり  
尚書萬葉云萬敷土隨山川木葉高  
山大川此之と漢書地理志云萬敷  
土隨山葉木葉高山大川師古曰  
新撰記云此師古の住してま  
さののまきしつらよむ

万葉八  
大伴坂上郎女  
打上佐保能河原之青柳者今者春  
部登成爾難類鴨

拾遺春  
あまこれのまきしつらよむひまきぬあまふ

おなご

古春下 家三  
おなご

おなご

古春下  
おなご

おなご

後春下貫之 家三  
おなご

おなご

同上  
おなご

おなご

古春下 家三  
おなご

新後拾遺春下  
おなご

古今戀一  
おなご

古春上  
おなご

新撰 夫維三岡 古本三つ集  
おなご

躬恒集  
おなご

おなご

古本集  
おなご

同  
おなご

おなご

同代春下  
おなご

おなご

おなご

おなご

後撰春上

おなご

おなご

新撰 夫維三岡 古本三つ集

躬恒集

おなご

おなご

おなご

古本集

おなご

同

おなご

同代春下

おなご



古春上 朗井家 塵ヲカヌ

素性

此の後口付大作者まゝとあり

同下より 花の匂ひはあつたあどほひんことぞ今ありける

共々

古今春下

同 新撰 家 古家 ちりちり花の匂ひはあつたあどほひんことぞ今ありける

素性

拾遺雜賀

同寛 新万 家 花の匂ひはあつたあどほひんことぞ今ありける

おね

拾物名より 花の匂ひはあつたあどほひんことぞ今ありける

古春下より 花の匂ひはあつたあどほひんことぞ今ありける

秋花

素性

家 花の匂ひはあつたあどほひんことぞ今ありける

いぢ

後秋中 家 花の匂ひはあつたあどほひんことぞ今ありける

おね

万十 續後拾秋下より 花の匂ひはあつたあどほひんことぞ今ありける

貫之

童 花の匂ひはあつたあどほひんことぞ今ありける

大秋六 九月 貫之集 花の匂ひはあつたあどほひんことぞ今ありける

拾秋 貫之集 花の匂ひはあつたあどほひんことぞ今ありける

古今秋下

花の匂ひはあつたあどほひんことぞ今ありける

此の万葉巻來山とありてマキ

花の匂ひはあつたあどほひんことぞ今ありける

朝恒集

あけのぼる  
おのむすぢのこころ

古秋下貫之新撰金屋朝卅

後秋下貫之

同下貫之家

同貫之家

貫之集

風多貫之代冬家

第二已出

拾貫之家

あな

玉冬家

後秋下

續千秋下家

おぢい

後秋下貫之類從來家持集

玉雅三貫之

おぢい

第二已出

玉雅三貫之

近江

おぢい

古秋下卅家

家あつらふ家

同

古秋下

後撰秋下

あけのぼる  
おのむすぢのこころ

万葉七

千名人雖云織次我二十物白麻衣

玉雅三貫之

あけのぼる  
おのむすぢのこころ

あけのぼる  
おのむすぢのこころ

あけのぼる  
おのむすぢのこころ

おぼつち

朝恒集

あけのぼる  
おのむすぢのこころ

古秋下貫之新撰金屋朝卅

後秋下貫之

同下貫之家

同貫之家

貫之集

風多貫之代冬家

第二已出

拾貫之家

あな

玉冬家

後秋下

續千秋下家

おぢい

後秋下貫之類從來家持集

玉雅三貫之

おぢい

第二已出

玉雅三貫之

近江

おぢい

古秋下卅家

家あつらふ家

同

古秋下

家  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
ふいふあはれははひまゐるふいふあはれ  
ふいふあはれははひまゐるふいふあはれ

あはれははひまゐるふいふあはれ

古秋下 貫之集 朗  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ

友則

同元方  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ

あはれははひまゐるふいふあはれ

古意五 卅家  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ

あはれははひまゐるふいふあはれ

同秋下 家  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ

あはれははひまゐるふいふあはれ

同 拾冬人 九 大 新撰 金 人 九 集  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ

あはれははひまゐるふいふあはれ

古秋下 新撰 代意 信明 家持 集  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ

あはれははひまゐるふいふあはれ

万 九 前 古 雜 中 伊 勢 集 夫 秋 六  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ

あはれははひまゐるふいふあはれ

第二 已 出  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ

新古今 哀傷 僧正 遍照  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ

此 古 今 朗 詠 集 又  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ

懷風藻 大津皇子  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ

古今 秋 下  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ  
あはれははひまゐるふいふあはれ





そせい

新古今兼輔朗 兼輔集 時ふるさとの言はれども 新古今 舟の歌よと たちをうらみぬ

伊勢

家のまへに梅のそよぞよの中 舟の歌よと たちをうらみぬ

はつゆき

雪のまへに梅のそよぞよの中 舟の歌よと たちをうらみぬ

梅

万葉十 藤原実方朝臣 拾春のまへに 梅のそよぞよの中 舟の歌よと たちをうらみぬ 赤人集

東三條右大臣

閑休右大臣

後春上 梅のそよぞよの中 舟の歌よと たちをうらみぬ

第二回出 梅のそよぞよの中 舟の歌よと たちをうらみぬ

はつゆき

古春上 梅のそよぞよの中 舟の歌よと たちをうらみぬ

おあー人

同新撰 梅のそよぞよの中 舟の歌よと たちをうらみぬ

梅のそよぞよの中 舟の歌よと たちをうらみぬ

梅のそよぞよの中 舟の歌よと たちをうらみぬ

梅のそよぞよの中 舟の歌よと たちをうらみぬ

おあー人

梅のそよぞよの中 舟の歌よと たちをうらみぬ

おあー人

此は頼俊の言の中のものなりと云ふにあつたるは孟宗の言にこそしるしありや

万葉十 何時鴨此夜之将明覽之 下同

新後拾春下 藤原実方朝臣

後撰冬 梅のそよぞよの中 舟の歌よと たちをうらみぬ

梅拾春家がふふうのうらやうなるものなうらやうなるもの

おあ

同雑春家のうらやうなるものなうらやうなるもの

おあ

古春上新撰金皇朗朝のうらやうなるものなうらやうなるもの

おあ

躬恒集  
梅がふふうのうらやうなるものなうらやうなるもの

新勅春上古本集のうらやうなるものなうらやうなるもの

おあ

拾春家のうらやうなるものなうらやうなるもの

おあ

曾舟集  
梅がふふうのうらやうなるものなうらやうなるもの

同朝舟家のうらやうなるものなうらやうなるもの

おあ

梅の花のうらやうなるものなうらやうなるもの

おあ

古春上古本集のうらやうなるものなうらやうなるもの

おあ

後春上家のうらやうなるものなうらやうなるもの

おあ

古春上寛新方家のうらやうなるものなうらやうなるもの

おあ

同家のうらやうなるものなうらやうなるもの

おあ

万葉五  
阿乎夜余我鳥梅等能波奈乎遠理  
可射之下同

万八夫春三のうらやうなるものなうらやうなるもの

おあ

古事記雄略記云宇多氏物云王子  
宇多氏又万葉十一  
若月清下見雲隱見欲宇多手比日  
まゝ新撰万葉うゝ別様とウタテと  
よめりとのつゝあゝぬ香の袖かゝり  
まゝのうらやうなるもの

万八夫春三のうらやうなるものなうらやうなるもの

おあ

しせ

續吉春上代春上春  
日ひ出く見え玉さうさ梅の香待の白ひのつと梅の香

友名

此の信明集よりとめあやまら  
万葉十九 藤原永手朝臣  
袖金而伊射吾苑爾聖乃木傳令落  
梅花見爾

古春上朗家  
ちあかやけつろとせんとめをさかをもき人ぞ  
平拾春 赤入集  
いづも此おあひらん雪の木侍ひちの梅の香らん  
ふやらの梅はさのふらけはあひいよる梅やぬん

大いもの村うへ 傳未詳

万八 夫春三又雜十三里  
おれ立ちまきの甲は梅の香山下の梅の香らん  
あまのつた

あまのつた

宣長云字まをさるそ時ふら  
とまふらぬらつふらふらとま  
づ 拾遺のあまをいそつとま  
るとつた

新千春上清原元輔 貫之集  
あまのつたあやまれし梅の香ふらとらうひら  
公忠集  
くれあまのつたあやまれし梅の香ふらとらうひら

母らく

後香上朗家  
あまのつたあやまれし梅の香ふらとらうひら  
拾遺集より  
あまのつたあやまれし梅の香ふらとらうひら

柳

願泉紀  
いねむらにさひ柳の香あやまれし梅の香ふらとらうひら

第四巴出  
あまのつたあやまれし梅の香ふらとらうひら

代春上貫之集  
あまのつたあやまれし梅の香ふらとらうひら

風春中 貫之集  
あまのつたあやまれし梅の香ふらとらうひら

はらけ

此の貫之とあはらけ 此の左  
伊勢とあはらけ 異本伊勢集  
亭子院歌合の時より 印本  
伊勢集とあはらけの香とせらる  
得りあり

新勅春上伊勢 朗亭 伊勢集 卅  
あまのつたあやまれし梅の香ふらとらうひら

みりね



新古今春上 古本集

みどり新

ゆき新

おね

續後拾春下 亭家

ふゆ新

ちり續

通昭

此のいんじん...  
この歌のせい

古春上貫之 新撰 朝貫之

後春中伊勢家

おん後家

さそ家

やぶい

〜んせう

新古今春上 貫之集

みどり新

伊勢

此丁右ふい

垂春上九 古本集

ナニ

〜んせう

新古今春上 貫之集

ナニ

万十 七方

の万

も万

あつたれいぎ... 柳の... 妹... 柳をば... 人の...

〜んせう

古春上 貫之集 持集 後集

てむ古

は〜ゆき

新古今春下 家

貫之 十五首

玉子を以て... 百子の... 柳の... 人の...

家

同  
あつたれい家

やぶい家

古今春上 みるゆ  
あやのり花見ぐさふくふく  
ちつあんほろぞきりくづ

史記李廣傳云桃李不言下自成蹊

新撰和歌集  
さくづつふふつふままふくふく  
わくづつふふつふままふくふく  
古本貫之集  
おんぞくふくふくふく 様をぬ  
ふくふくふくふくふく

拾遺雜下 惠慶法師  
たのふくふくふくふくふく  
ふくふくふくふくふく  
古本朝恒集  
おんぞくふくふくふく 様をぬ  
ふくふくふくふくふく

古今賀 在原業平朝臣  
さくづつふくふくふくふく  
ふくふくふくふくふく

續古今春下 家  
あつふくふくふくふくふく  
様 家  
いらふ新

あつふくふくふくふくふく  
さくづつふくふくふくふく  
古春下

人ちよぶ物あつふくふくふく  
白くふくふくふくふく  
拾春亭 新撰 金玉朗卅家  
さくづつふくふくふくふく

ちよぶふくふくふくふく  
同 おんぞくふくふく 家  
様 家  
ふくふくふくふくふく

躬恒二首

古今集  
今まがふくふくふくふく  
後春下 古本集  
いつのふくふくふくふく  
拾遺雜下 家  
ゆきふくふくふくふく  
古春下

風あつふくふくふくふく  
新後拾春下 家  
ゆきふくふくふくふく  
様 家  
ゆきふくふくふくふく

おんぞく

つづつふくふくふくふく  
おんぞく

古春上  
らんぬれ...  
りよ...

此...物の名...

古本集  
櫻花...  
まげ...

友也

古春上家  
い...  
櫻...

花條已出  
久...

そせり

古春下...家  
ま...

おね

同...  
い...

ねち

第五已出  
つ...

きの...

真淵云此...素性集...  
本...  
あ...  
今...  
と...  
よ...  
の...  
と...  
もの...

古春上 新撰  
櫻...

赤...

同...  
ま...

ふ...

同貫之  
ま...

い...

同...  
た...

若...

同...  
ね...

同...

同...  
は...

伊勢

藤原家 藤原家

す

吉春上家

吉春上家

吉春上家

吉春上家

代春下家

吉春上家

業平

吉春上家

吉春上家

伊家

人まろ

吉春集

吉春集

おあつ人

新古今春下 太上天皇

其

吉春上家

吉春上家

吉春上家

吉春上家

たうり

吉春下家

同春上新撰伊家金太郎

同春上新撰伊家金太郎

万共童

万共童

万共童

万共童

万共童

か

吉物治書之

躬恒

万共童

万共童

万共童

万共童

万共童

万共童

万共童

新撰万葉上  
浅野野邊之霞者襄輒已保礼手句  
布花櫻鉈

本草和名云櫻桃和名波々加乃美  
一名加乃波佐久良乃美とあると  
和名抄云遊波佐久良とある加文  
字のにおよぶことなきを記す

万葉五  
鳥梅能波奈伊麻佐可利奈理意母  
布度知加射之爾斯且奈伊麻佐加

葛井大夫

万共童

利奈理

ひたひた

さ藏 桜のさくらもはなもさくらも

あゝ

古春上 新蝶 桜花さくらまき

あゝ

万葉十一  
玉梓之道去夫利爾不思妹乎相見  
而戀比鴨  
和名抄山谷類云峽考聲切韵云山  
間陝處也俗云加山也

同春上 桜花さくらまき

同春上 桜花さくらまき

あゝ

同春上 家 桜花さくらまき

あゝ

古春集 桜花さくらまき

後撰春中 大持御息所  
さくらまきさくらまきさくらまき  
さくらまきさくらまきさくらまき

同春上 家 桜花さくらまき

續古春下 古本集 桜花さくらまき

あゝ

古春上 寛新撰 家 桜花さくらまき

あゝ

同感三是則 是則集 山城 桜花さくらまき

あゝ

後春中 家 桜花さくらまき

あゝ

同家 古本家持集 播磨 桜花さくらまき

あゝ

古賀素性 新撰 金玉 射恒集卅

はらばらけの 桜花くらりゆきておぬ日ぞあま

万八赤人 新撰 春上

はらばらけの 桜花くらりゆきておぬ日ぞあま

拾春上人 近

はらばらけの 桜花くらりゆきておぬ日ぞあま

夫春四花 近 古京らぬ集

はらばらけの 桜花くらりゆきておぬ日ぞあま

古夏上人 新撰 家

はらばらけの 桜花くらりゆきておぬ日ぞあま

万八 古京家持集

はらばらけの 桜花くらりゆきておぬ日ぞあま

同内藏居士 繩書 拾夏九 夫春 朗人 元集

はらばらけの 桜花くらりゆきておぬ日ぞあま

續古春下貫之 家朗

はらばらけの 桜花くらりゆきておぬ日ぞあま

同 家

はらばらけの 桜花くらりゆきておぬ日ぞあま

同

はらばらけの 桜花くらりゆきておぬ日ぞあま

新古春下 新撰 家 河藤 裏業

はらばらけの 桜花くらりゆきておぬ日ぞあま

源 新撰

はらばらけの 桜花くらりゆきておぬ日ぞあま

是の春の 桜花くらりゆきておぬ日ぞあま  
後拾遺春下 春上 和泉式部  
風あはれ 和泉式部  
永久四年百首 兼昌  
本の中 兼昌  
袖中抄卷三 頭昭云 本字 子食 瘦  
種あま 金を以 襦袢 せ 芳と きて せ  
か 又 ねの こと さま さま  
み び び び び び び  
射恒集  
己が 己の 己の 己の 己の 己の  
心 心 心 心 心 心  
万葉十  
戀之久者 形見 雨為 與 登 吾 背 子 我  
殖之 秋 芽 花 咲 雨 家 里

夫春四花 近 古京らぬ集  
あつた ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
ふ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
人 磨  
あ の ひ と  
花 持  
く 万 夫  
た 夫

新恒

お那

お那

世も似ぞたれうさけておはあもゆらふこそはなれ

古集 新撰 古本集  
お那のうらみはなれぬ人のこころ

通照

同 同 家  
お那のうらみはなれぬ人のこころ

お那

後春下より一巻 續十卷下伊勢 伊勢集  
お那のうらみはなれぬ人のこころ

お那

万六厘武帝御製  
お那のうらみはなれぬ人のこころ

お那

家持集  
お那のうらみはなれぬ人のこころ

お那のうらみはなれぬ人のこころ

お那

家  
お那のうらみはなれぬ人のこころ

お那

古本集  
お那のうらみはなれぬ人のこころ

家持

夏 ちか  
お那のうらみはなれぬ人のこころ

お那

古夏より一巻 新撰 伊吉集 朗伊勢  
お那のうらみはなれぬ人のこころ

お那

同  
お那のうらみはなれぬ人のこころ

此は古今を平らとまへ 朗詠古  
本集より一巻 朗詠古  
あまのうらみはなれぬ人のこころ

此名誤まり今按きり小万葉六ふ  
橋本爾道廣八衢前物守曾念人爾  
不所知右一首右大并高橋安磨郷  
語云故豊島采女之作也此  
うううう三万抄跡うう不不似似うう  
左注不安磨不安磨ととああををううああややままうう  
ててううふふ安磨安磨とといいちちるるううああままうう  
和名抄菓類云七巻食經云橙橙反反和和  
名安部太 似袖而小者也  
知波奈

袖中抄卷十三題昭云去ひのてやて  
うう推推の本本地地ちちひひささ枝枝いいららええ  
ここややててああままうう同同ままうう  
新撰字鏡云藤山藤藤山藤まま和名抄木  
類小毛詩云桑柘桑柘漢語抄番所食之  
葉也葉也

契沖云万葉万葉七七不足病之山海石榴  
開八開八越越ああうう右右のの海海石石榴榴ととままうう  
くくとと誤誤てて此此くくとと誤誤てて此此くくとと誤誤てて此此  
本草和名云安石榴佐久呂佐久呂和  
名抄木類云唐韻云椿和名豆木名  
也楊氏漢語抄云海石榴和名ととままうう  
されされいい安石榴安石榴ととままうう海石榴海石榴ととままうう  
ささああままうう名名ののままううととままううととままうう  
兄誤兄誤ととままううととままううととままううととままうう  
ううととままううととままううととままううととままうう  
和名抄菓類云陸詞切韻云橘音  
和名抄山梨也

吉夏吉夏伊勢集  
今今新新ききねねののいいままとと新新ああるる都都はは花花ののささららるるととああららううああるる

ふふととああららううととああららうう

万二万抄跡玉戀一  
たたららししのの信信ああままららるるたたららししのの信信ああままららるる

同十人集赤人集  
ああららししのの信信ああままららるるああららししのの信信ああままららるる

ああららししのの信信ああままららるる

同土家持集  
ここききああままららるるととああららししのの信信ああままららるる

ああららししのの信信ああままららるる人人丸丸

同七  
ああららししのの信信ああままららるるああららししのの信信ああままららるる

同古夫難土同古夫難土  
ああららししのの信信ああままららるるああららししのの信信ああままららるる

河推本人河推本人  
ああららししのの信信ああままららるるああららししのの信信ああままららるる

ああららししのの信信ああままららるる

同  
ああららししのの信信ああままららるるああららししのの信信ああままららるる

ああららししのの信信ああままららるる

古東哥  
ああららししのの信信ああままららるるああららししのの信信ああままららるる

伊勢  
ああららししのの信信ああままららるるああららししのの信信ああままららるる

古東人集  
ああららししのの信信ああままららるるああららししのの信信ああままららるる

同夫秋四秋原同夫秋四秋原  
ああららししのの信信ああままららるるああららししのの信信ああままららるる

ああららししのの信信ああままららるる

夫難土梨夫難土梨  
ああららししのの信信ああままららるるああららししのの信信ああままららるる

ああららししのの信信ああままららるる

万十万十赤人集  
ああららししのの信信ああままららるるああららししのの信信ああままららるる

同七  
ああららししのの信信ああままららるるああららししのの信信ああままららるる

同十九家持同十九家持  
ああららししのの信信ああままららるるああららししのの信信ああままららるる

ああららししのの信信ああままららるる



万葉十

小竹葉雨薄太礼雲覆消名羽鴨狩  
志云音益所念  
袖中抄卷五頭昭云云云云云云云云  
云々云々云々云々云々云々云々云々  
云々云々云々云々云々云々云々云々

李

やうめり

万五

この國のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ

かへ梅

深き父

同

胡桃

はらけ

あはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ

すま

第二出

この國のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ

拾雜戀家

あはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ

古今物名

共衛  
あはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ

此の万葉の振之神杉神備而とありて  
フルノカミスギカミヒテモ云々云々  
云々云々云々云々云々云々云々云々

神名帳云大和國山邊郡石上座布留御魂神社  
契沖云赤木比の神と三輪と同一  
伴の杉ハ三輪の杉水と神のよ  
りありて又削る板まはれ  
やうめり板まはれ

あはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ

五十 赤人集

あはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ

同九

あはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ

むろ

第五七出

あはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ

同八

あはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ

同八

あはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ  
のまはれは雲々なるまはれ

忠孝

香く入るる程のあしん

あしん地名あり和名抄子紀伊國在  
田郡英多とあり是あり

古賀素性 拾秋忠峯 家持集 家

あしん 續古雜下人九 夫雜十一人

あしん 續古雜下人九 夫雜十一人

柱

後春上賢之

あしん 續古雜下人九 夫雜十一人

あしん 續古雜下人九 夫雜十一人

あしん 續古雜下人九 夫雜十一人

かぶりの木

万八 犯女郎 袖

あしん 續古雜下人九 夫雜十一人

あしん 續古雜下人九 夫雜十一人

あしん

あしん 續古雜下人九 夫雜十一人

古今戀三 万八 犯女郎 袖

あしん 續古雜下人九 夫雜十一人

か

あしん 續古雜下人九 夫雜十一人

くぬぎ

あしん 續古雜下人九 夫雜十一人

榎

あしん 續古雜下人九 夫雜十一人

あつち

おののけいふたつたけしりていふはあつちのあつち

あつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつち

か

あつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつち

契沖云をいつたての柏をあつちの柏  
つたて葉十八 粟田女王歌  
都奇蘇知巨伊徹滿波由可牟和  
佐世流安が良多知婆奈可氣ル見  
要都追るあつちのあつちのあつち  
あつちのあつちのあつちのあつち  
このあつちの法抄物に縁ありき  
まゝのあつちのあつちのあつちのあつち  
あつちのあつちのあつちのあつちのあつち  
あつちのあつちのあつちのあつちのあつち  
あつちのあつちのあつちのあつちのあつち  
あつちのあつちのあつちのあつちのあつち  
あつちのあつちのあつちのあつちのあつち

本草和名云厚朴一名厚皮和名保  
保加之波

伊呂波字類抄云宛恰恰ア多モ

契沖云いつたての柏をあつちの柏  
又柏あつちのあつちのあつちのあつち  
あつちのあつちのあつちのあつちのあつち  
あつちのあつちのあつちのあつちのあつち  
あつちのあつちのあつちのあつちのあつち  
あつちのあつちのあつちのあつちのあつち  
あつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつち

古今戀五

あつちのあつちのあつちのあつちのあつち





あふとびをもちてー拾遺物名ふ  
あふとびまじりあふとびちちてりぬ  
ういのみゆふふまじりあふとびちち  
あふとびまじりあふとびちち

此ら新千載慶賀ふあふとびちち  
あふとびまじりあふとびちち

こ

ちいぢか

雪賀家  
河内あびく芦田新あふとびちち  
あふとびまじりあふとびちち

あふとび

代賀家

ちいぢかあふとびちちあふとびちち  
あふとびまじりあふとびちち

古雜寛平法皇新撰新朗

芦田新あふとびちちあふとびちち  
あふとびまじりあふとびちち

貫之集

あふとびまじりあふとびちち  
あふとびちちあふとびちち

あふとび

家

あふとびちちあふとびちち  
あふとびまじりあふとびちち

あふとび

家

あふとびちちあふとびちち  
あふとびまじりあふとびちち

あふとびまじりあふとびちち  
あふとびちちあふとびちち

相鶴經云鶴者陽鳥也生二年落子  
毛三年頂赤七年舞應節百六十年  
不食生物大毛落草毛生潔白如雪  
復百六十年雌雄相視目睛不轉則  
孕千六百年飲而不食而胎生益羽  
族之宗長也

五十一

あふとびちちあふとびちち  
あふとびまじりあふとびちち

同十五册以大夫

あふとびちちあふとびちち  
あふとびまじりあふとびちち

あふとびちちあふとびちち  
あふとびまじりあふとびちち

あふとび

あふとびちちあふとびちち  
あふとびまじりあふとびちち

万六續古雜中金玉夫雜元朗卅古來集  
北伊

あふとび

あふとびちちあふとびちち  
あふとびまじりあふとびちち

同二

あふとびちちあふとびちち  
あふとびまじりあふとびちち

古秋上

あふとびちちあふとびちち  
あふとびまじりあふとびちち

あふとび

あふとびちちあふとびちち  
あふとびまじりあふとびちち

同二新撰京公忠集

あふとびちちあふとびちち  
あふとびまじりあふとびちち

万葉四  
足引乃山雨生有管根乃  
金明軍  
君可聞  
金明軍  
君可聞

古今總一  
あふとびちちあふとびちち  
あふとびまじりあふとびちち



古春上 新撰家朗

あはれおぼしき心持てはるるにまはるる心持を

あはれ

後秋下

あはれおぼしき心持てはるるにまはるる心持を

あはれ

新拾遺秋下  
秋風山をび 試てくさうけ  
とちゆみほのみのあま

あはれおぼしき心持てはるるにまはるる心持を

あはれ

古秋上

まはるるあはれおぼしき心持てはるるにまはるる心持を

新古秋下

あはれおぼしき心持てはるるにまはるる心持を

五十九家持 夫春五 かく万夫

あはれおぼしき心持てはるるにまはるる心持を

續後拾遺

あはれおぼしき心持てはるるにまはるる心持を

同 一 世集平 伊

あはれおぼしき心持てはるるにまはるる心持を

万葉十一  
自高山出来水石觸破衣念妹不相  
如者

月をばらばらとみ人の心持を

又十  
打藤春立奴良志吾門乃柳之宇礼  
爾豊陽都

うらみは

あはれおぼしき心持てはるるにまはるる心持を

赤人

あはれおぼしき心持てはるるにまはるる心持を

契沖云くつらつら万葉中二人九の  
そ影小言左散久百濟之原従云と  
よみれさうておあはれ大和あり  
張ちふ梅津とあらあまも

あはれおぼしき心持てはるるにまはるる心持を

あはれおぼしき心持てはるるにまはるる心持を

あはれおぼしき心持てはるるにまはるる心持を

あはれおぼしき心持てはるるにまはるる心持を

あはれ

あはれおぼしき心持てはるるにまはるる心持を

古本集

あはれおぼしき心持てはるるにまはるる心持を



古春下  
同 古本集  
なほささゆきふりてはなはた  
あけぬるはなはた

千重

同 古本集  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた

千重

第 己 出  
新拾雅 興風亭 雲春中 代春下  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた

千重

古春上 寛 新方 句  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた

千重 彈正忠紀扶範男

毛詩國風伐木篇云代木丁々鳥鳴  
嚶々出自幽谷遷于喬木  
拾遺春 中納言朝忠  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた

長谷雄 一人を長谷ハナナセ  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた

千重

同春中  
花條 己 出  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた

古春上 新撰 新撰 催  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた

同 誹諧  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた

後春上 句 古春 赤人集  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた

千重 贈太政大臣 長良公御女

古春上 新撰 新撰  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた

此の句題和歌に出でて西へ千里  
の程に後撰得るまで  
重之集  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた

後撰戀五  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた  
あけぬるはなはた

此の流布本と云ふ一工本藏本  
と云ふ

万十 赤入集  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに

同 夫春二 赤入集  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに

同 續後撰集  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに

同 十九家持 夫春二  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに

まぢたれば先づかゝるゝりまゝに  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに

まぢたれば先づかゝるゝりまゝに  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに

ほつた

古来入集  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに

同  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに

小田 廣瀬  
傳赤詳

万八 夫雜十 傳赤詳  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに

大伴

同 万理直令 同夏二  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに

同 巨堅魚朝臣  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに

大伴 大伴  
傳赤詳

同 夫百足 滿  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに

大伴 家持  
傳赤詳

同  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに

大伴 家持  
傳赤詳

同  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに

同 九  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに

久米 廣  
傳赤詳

同 五 拾夏  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに

万

契沖云此の  
大伴の妻の  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに  
まぢたれば先づかゝるゝりまゝに

此を源平盛衰記女院出家の條  
 み女院のほねのちふふきとそふふき  
 せりおとあをてうち備へて  
 万葉十  
 霍公鳥汝始音者於吾欲得五月之  
 珠爾交而將貫

曾丹集  
 此のうらみかたをいふは...

此のうらみかたをいふは...  
 後撰拾遺のち保勢...  
 勢集ふも入るは拾遺のち...  
 天曆の時の法原原のち...  
 更衣護子...  
 天曆まてその間凡古十年竹十...

新古今入る新  
 時るさか橘のちのちあへて新  
 八新初夏大夏二家持集  
 かきさびの岩波の杜は時るあ...のちよくしうまはるん  
 同藤原夫人 亦入集

古夏昔之 寛新方新撰卅朗  
 夏のおれは...  
 拾夏昔之家

古夏昔之 類従本家持集  
 此のうらみかたをいふは...

此のうらみかたをいふは...

新拾遺昔之代夏家と家  
 此のうらみかたをいふは...

後夏昔之家  
 此のうらみかたをいふは...

いよやま

あ

後夏家  
 此のうらみかたをいふは...

同  
 此のうらみかたをいふは...

古夏新撰家  
 此のうらみかたをいふは...

船恒

後夏拾夏伊勢集  
 此のうらみかたをいふは...

あ

古夏  
 此のうらみかたをいふは...

あ

同 寛新方家  
 此のうらみかたをいふは...

あ

古夏 新撰家

石上

おね

後撰戀一 柱のこ

同家

おね

友則

同寛新方家

おね

順集

同同同同

同同同同

おね

おね

同家

山城

源二 大藏卿國紀男

拾遺金皇朝卅家

おね

古今夏

後夏

後夏

後夏

おね

拾遺戀一

古戀二家

古戀二家

おね

おね

おね

惟奇親王御女

同夏 小町集

おね

美濃守善峯男

同寛新方

おね

万八 夫夏二抄

おね

みつね

續古今夏

おね

古徳四上ノ人ナリ新五

誰ノ人ナリシヨリ  
百千風徳一 赤人集  
古夏ノ人ナリ新撰 猿丸集  
五月ノ人ナリ新撰 猿丸集

拾遺前 金玉家  
夫冬ニトノ人ナリ新撰

大和物語  
夫冬ニトノ人ナリ新撰

大伴坂上郎女

此ノ重家抄巻ハ二万葉集ノ  
夫冬ニトノ人ナリ新撰

和名抄羽族名云萬葉集云喚子鳥  
其續與不  
古止里  
此書ヲ多ク契沖ガ餘材抄ニ載  
珠クケ格トシテ書キテ  
呼ビテ

拾遺前 金玉家  
喚子鳥

厚弁集  
大伴坂上郎女

同八  
古春上ノ人ナリ新撰 猿丸集



枕草紙云おのれは

本字吟云おのれは

源氏若菜上云

河海抄より

信明集

源氏寄生巻五

若冲云

此説云

蒙難警

あ

此

此

此

此

此

かほち

河若菜

かほち

かほち

かほち

五十

同赤人集

古本人集

新古今

お

お

お

お

お

お

五十九

かほち

五十

同

かほち

かほち

かほち

五十

同

かほち

かほち

かほち

かほち

かほち

かほち

かほち

かほち

かほち

月令云孟春之月鴻雁來是月也玄鳥至注云玄鳥燕也

本朝文粹卷十二源順朝臣侍中亞將為撰和歌所別當御筆宣旨奉行文云左親衛藤原亞將者當世之賢大夫也云云歌所といふことありしをいへり也又

家長日記云建仁ころハ和歌不としてあり二條の倉はあつたありたむ二間おち板もあつて屋上人の床と申かいつふありてありてあり

老云愛氏清國無知乎天門開闔能為雌乎のふは四位上條朝臣とあるハその家の家長朝臣のころにありたりは天門大夫時長朝臣の男と

姓氏録云雄略天皇御世以天親賜大連公奏曰衛門開闔之者於職已重若一身雖

寛喜二年十二月十九日入道光俊右大臣本重授了件本者家長朝臣本云

前和歌所用圖從四位上源朝臣在判

- 夫木抄春二 鶯よるい
- 同春三 春駒 同上
- 同春四 花 源信明朝臣
- 同春六 山吹 よるい
- 同春六 藤花 同上
- 同夏一 早苗 ちるい
- 同夏二 子規 よるい
- 同秋二 荷葉 同上
- 同秋二 槿花 同上

### 古今六帖拾遺

きよよみ入るる人みよのむらさき  
 喜の歌よみよのむらさき  
清正集 いづこもくみれはむ様さうむらさきむらさき  
 まみよーちるもちるや山吹の井のさか  
 うらまゝむらさきさるるさの袖さう  
 けのむらさきのむらさき  
 かさうむらさきのむらさき  
 むらさきのむらさき  
 やまのむらさきのむらさき





袖中抄卷十五

河海抄標澤

同関屋

同松風

同初音

同胡蝶

同藤裏葉

同若菜上

同上

同夕霧

同御法

井寺左大臣

枇杷里太右衛門

大 新古今

可八續千雜上夫雜五佐保左大臣

秋の聲もはるかに響きわたる

新古今 新古今

之をよみてはるかに響きわたる

はるかに響きわたる

はるかに響きわたる

はるかに響きわたる

はるかに響きわたる

はるかに響きわたる

はるかに響きわたる

同紅梅

同宿木

歌秋良村下

同上

同上

貫之集

人の老を いづち買

新古今 新古今

新古今 新古今

新古今 新古今

新古今 新古今

うき本教たるは世にたはるるに似たり  
しよしあしよしよしよしよしよしよしよし  
えんしよしよしよしよしよしよしよしよし  
小あしよしよしよしよしよしよしよしよし  
あしよしよしよしよしよしよしよしよし  
勢あしよしよしよしよしよしよしよしよし  
しよしよしよしよしよしよしよしよしよし  
あしよしよしよしよしよしよしよしよし  
かしよしよしよしよしよしよしよしよし  
たあしよしよしよしよしよしよしよしよし

Some of the best of the same...  
the first of the...  
the second of the...  
the third of the...  
the fourth of the...  
the fifth of the...  
the sixth of the...  
the seventh of the...  
the eighth of the...  
the ninth of the...  
the tenth of the...  
the eleventh of the...  
the twelfth of the...  
the thirteenth of the...  
the fourteenth of the...  
the fifteenth of the...  
the sixteenth of the...  
the seventeenth of the...  
the eighteenth of the...  
the nineteenth of the...  
the twentieth of the...  
the twenty-first of the...  
the twenty-second of the...  
the twenty-third of the...  
the twenty-fourth of the...  
the twenty-fifth of the...  
the twenty-sixth of the...  
the twenty-seventh of the...  
the twenty-eighth of the...  
the twenty-ninth of the...  
the thirtieth of the...  
the thirty-first of the...  
the thirty-second of the...  
the thirty-third of the...  
the thirty-fourth of the...  
the thirty-fifth of the...  
the thirty-sixth of the...  
the thirty-seventh of the...  
the thirty-eighth of the...  
the thirty-ninth of the...  
the fortieth of the...



